

○セディール錠 [内]

【重要度】 【一般製剤名】 タンドスピロンクエン酸塩 tandospirone citrate 【分類】 セロトニン作動性抗不安薬

【単位】 △5mg・○10mg錠

【常用量】 30mg/日 [最大60mg]

【用法】 1日3回

【透析患者への投与方法】 尿中未変化体排泄率が低いいため減量の必要なし (5)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 減量の必要なし (5)

【特徴】 セロトニン神経系に選択的に作用し、従来のベンゾジアゼピン系誘導体とは異なった作用機序により抗不安作用および抗うつ作用を示す。5HT_{1A} 受容体に選択的に結合する。抗コンフリクト作用はジアゼパムと同等で筋弛緩作用、協調運動抑制作用を持たず、眠気、口渇、便秘などの副作用が少ない。ただし、効果発現には2~3週間が必要。

【主な副作用・毒性】 肝機能障害、黄疸、セロトニン症候群、眠気、ふらつき、めまい、頭痛、動悸、頻脈、口渇、消化器症状、発疹、多汗、振戦、悪夢、浮腫、好酸球上昇など

【吸収】 食事の影響を受けない (1)

【F】 資料なし (1) おそらく小さい (5)

【tmax】 1.4±0.3hr [食後] (1)

【代謝】 肝臓で CYP3A4, 2D6 が関与して代謝 (1) 代謝物である 1-(2-pyrimidinyl)-piperazine は活性を持つと考えられているが、α受容体に結合する (J Clin Psychopharmacol 12: 341-5,1992) 主に CYP3A4 が関与し、わずかに 2D6 でも代謝 (Natsui K, et al: Eur J Drug Metab Pharmacokinet 32: 233-40, 2007)

【排泄】 尿中未変化体排泄率 0.01~0.04% (1) 尿中排泄物はほとんど代謝物 (1)

【CL/F】 資料なし (1) 単回投与時の AUC より 2000L/hr [おそらく F が小さい] (5)

【t1/2】 1.4hr (1) 高齢者で 2.7hr (1)

【蛋白結合率】 54~57% (1)

【Vd】 大きい (1)

【MW】 575.61 [塩]

【透析性】 おそらく分布容積が大きいいため、効率的には除去できないと思われる (5) 資料なし (1)

【TDM のポイント】 TDM の対象にならない

【O/W 係数】 51.2 [1-オクタノール水系, pH7] (1) 【pKa】 2.17, 7.54 (1)

【相互作用】 メジャートランキライザー：錐体外路症状の増強 (1) 他のセロトニン作動薬：セロトニン症候群のリスク (1)

【更新日】 20171115

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。